

NPO 法人地球デザインスクール

アニュアルレポート 2016

ANNUAL REPORT 2016

「なんとかなる」を、丹後から
From Tango



NPO 法人
地球デザインスクール
since 2002

気象衛星「ひまわり9号 (Himawari-9)」撮影

Our Concept

「なんとかなる」を、丹後から



私たちは、目指す社会像の答えが丹後にあると考えています。

森、里、海に囲まれたこの地域。その自然は厳しくもあり、豊かでもあります。

丹後の人にとって自然とは挑むものではなく、向き合い、受け入れるもの。

丹後の暮らしの中に息づく知恵や技、考え方

経験や技術に裏打ちされた「なんとかなる」という自信



丹後で経験し、考えて、わかって、自ら行動する。

Concept 『「なんとかなる」を丹後から』

どのような状況にあっても「なんとかなる」という確かな自信を持って

未来の社会モデルを想像し、発信していきます。



宿泊管理

ふるしきでおもてなし

ふるしき研究会（代表：森田知都子さん）さんに講師をお願いして研修会「ふるしきを楽しく！」を開催したのは、今から8年前になりました。そのあとも包み方教室等で活用をしていますが、新たな活用方法として、「お客様のリネン」をふるしきに包んで提供を始めました。



ご要望にお応えして

宿泊のお客様アンケート「食後にコーヒーが飲みたい・・・」の声に答えて、セルフで淹れていたただくことにはなりますが、食堂内にドリップコーヒャーを置きました。



園地管理

緑のプラン大賞受賞

公園に生息している京都府の準絶滅危惧種である「ハッチョウトンボ」。その生息環境の保全に市民参加型で取り組んでいます。この活動が地域で身近な緑の空間を創出するものと評価され、第27回緑のプラン大賞「コミュニティ大賞」を受賞し、ハッチョウトンボをより観察しやすく整備しました。



植栽管理と獣害対策

公園樹の生育不良を改善するために施肥、剪定や消毒などの公園樹を育てる活動を始めて3年経ちました。今まではすべての公園樹に手をかけてきましたが、今年は生長する見込みのある木だけ手をかけました。今後は挿し木で育苗している自生種の花木（ヤブツバキなど）を沿道に植えて花いっぱい公園づくりを目指します。イノシシによる獣害被害が深刻なため、景観維持と来園者の安全性を考慮した獣害柵をオリジナルで制作、設置しました。



2016年事業報告

公園運営

来園者数：39,618人

宿泊者数：2,198人

体験プログラムの実施

参加者とともに森づくり

春・夏は、植物の調査を行ったり、多様性を考えながら園内に繁茂している笹の剪定を中心に行いました。残すべき植物をしっかりと1本1本確認しながら笹を剪定しました。

秋は間伐作業を中心に実施。放置され混み合い成長できない木も多くあるため、子どもと大人が協力しながら立木の伐倒をしました。間伐作業を通し、明るくて気持ちのいい森にするとともに、太く丈夫な木を育てていくことを参加者に伝えながら間伐をしています。

今後も参加者の方と一緒に森に手を加えていきたいです。

《実績》 全32回 参加者計378名



公園施設情報

ツリーハウスがリニューアル!

こどもから大人まで人気のこどもの森の人気スポット、ツリーハウスが「魚付ハウス」として、リニューアルしました。魚付ハウスの名前の由来は、一帯の森が、眼下の海に棲む魚や貝、海藻などの水産資源にとつて重要な「魚付保安林」であるためです。以前と比べ、階段を登りやすいように作り直したので、小さなお子さんでも安心して楽しんでいただけます。



公園の顔が新しく!

デザインは、公共サインや自然公園内のサインなどを手掛ける環境デザインナーの石川新一氏（東南北西デザイン研究所）。制作は、本場スペインで伝統技法を習得された洋鍛冶職人の長命佳孝氏が担当。うみほし公園のイメージである海・星・トンボをデザインしたものが、直線と曲線・円によって形作られたゲートです。デザイン面に加えて、丹後の積雪を考慮した構造に仕上がっています。



手づくりの散策路オープン

森づくりプログラムやサポーター活動など、数年かけて多くの人たちと一緒につくった道です。五感を使って歩いてほしいので、舗装はしていません。森の中で海の風を感じながら散策するのはいかがでしょうか。



2016年事業報告 公園運営

SNS「いいね!」数：1,086人（2017年3月末時点）
新聞記事掲載（公園関係・NPO関係）：10件

パークアンビエンス制作

公園開園10周年を記念し、宮津市出身の作曲家・小松正史氏（京都精華大学教授）に公園オリジナル環境音楽「パークアンビエンス〜うみほし公園のためのピアノアンサンブル〜」を制作していただきました。園内の森や近くの川や海で、鳥の鳴き声や川や波の音といった自然の「音」を採音。
自然の音だけでなく、田植え体験の時の参加者たちの笑い声やスタップのかけ声、橋立風鈴や竹の手ぼうきの音など、うみほし公園ならではの音も楽曲に入れていただきました。

来園者の方への心地よい空間づくりのために、園内ではセミナーハウス事務所や食堂、森のカフェでも流れています。



※環境音楽とは、ある空間の背景で鳴らされている「壁紙」のような音楽のこと。空間の雰囲気をよくする引き立て役や、かくし味のような存在。



ガキキャンプ

丹後のガキ大将になる!

都市部の小学生対象のものと近隣の小学生対象の宿泊型のプログラムを企画しました。夏は海でのシュノーケリングやシーカヤック、魚釣りなどの海を中心としたプログラムを行い、冬は山で雪遊びを行いました。春は野草の先生を招いて、春の野草を見て味わうなど、季節に応じた自然体験を実施しました。また、初めて1週間のキャンプを実施。公園を飛び出して丹後地域の自然を体験して周り、参加者にとってより満足度の高いプログラムとなりました。

— 京阪神の小学生を対象にしたプログラム— 《実績》全3回 40名

夏ガキになろう!、冬ガキになろう!、春ガキになろう!

— 丹後の小学生を対象にしたプログラム— 《実績》全2回 41名

丹ガキになろう!、山ガキになろう!



2016年事業報告 環境教育プログラム

年間プログラム体験者数：5,362名
学校受け入れ人数：1,452名

森もりキッズ

失敗 × チャレンジ × 自主性

自然体験を通して失敗を重ねる中で改善し、チャレンジする力を身につけるプログラム展開しました。最終月にはキャンプのタイムテーマブルも子ども達で考えるなど、子どもたちの自主性をのばし、チームで判断する力を身につける内容となりました。

《実績》全10回 117名



どんぐりようちえん

子どもの時間、気づきの時間

未就学の幼児と保護者を対象とした自然体験「どんぐりようちえん」を開催しました。季節ごと森あるきや川遊びなど活動内容を変えながら行いました。親子での活動を基本としながらも子どもたちだけで活動する時間をつくり、子どもたちの気づきや挑戦を大切にしました。

《実績》全9回 159名

京都自然塾

「地球の道」壁画を修復

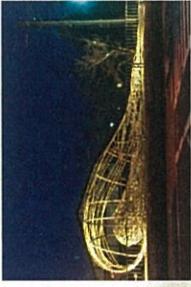
昨年度に続き、宮津市教育委員会と連携により、宮津市の小学4年生を受け入れました。それに加え、地元中学校2校、幼稚園の遠足、家族でのご利用、認定ことも園の職員研修、スポーツクラブ、シニア団体など幅広い世代に受けていただく機会がありました。
経年劣化により剥がれてしまっていた地球の道の壁画を宮津高等学校の美術部の皆さんに修復作業をしていただきました。



宮津・竹の学校

「宮津産・橋立風鈴」完成!

宮津市のまちづくり補助金を活用し、金沢工業大学の土田義郎教授との協同制作により、2度の試作を経て宮津産竹材のみを使用した橋立風鈴を完成させました。宮津市内で開催した橋立風鈴づくり体験では、30名の方が橋立風鈴を作成されました。



日伊合作が宮津市内に登場

京都府文化力チャレンジ補助金を活用して、「竹のインスタレーション」制作と、「竹の教科書2016」の発行を行いました。インスタレーションでは、イタリアからリツカルド氏ら3名のアーティストを招聘し、宮津市浜町の国道付近に「センチイレーTAKKE」と題した作品を展示しました。

2016年事業報告

環境教育プログラム

京都自然塾体験者数：431人
自主事業体験者数：2,405人

グリーンバンバレーズ構想実行委員会

重要里地里山を身体全体で味わう

重要里地里山に選定された「波見谷」と「上世屋」をフィールドにして、自然環境や生物の多様性を感じ、学ぶツアーを季節ごとに企画しました。春はタケノコや山菜を味わうツアー、秋は生物に着目し、池・川・湿地・草原などでの観察、冬はスノーシューを行いました。企画運営はグリーンバンバレーズ構想実行委員会で行い、実行委員として理事や職員が関わりました。

《実績》全3回(4月、9月、2月) 61名



コネクト3TAN

若手中心の活動、始動!

丹後・丹波・但馬の三丹地域にある自然系コミュニティの若手が集まり、勉強会を開催しました。夏には、三丹地域全体で自然系ミュージアムが盛り上がるようにスタンプラリーを開催し、施設を周ることで豪華なクラフトが完成する思い出ボックスを企画しました。

《所属団体》

琴引浜鳴き砂文化館・兵庫丹波の森協会
コウノトリ文化館・山陰海岸ジオパーク館
丹後海と星の見える丘公園



インターンシップ

専門分野を活かした学生の受け入れ

学生の学びの場として、インターンシップの受け入れを積極的に行いました。

夏のキャンプでのこどもサポート以外にも、整備や獣害対策、植生調査、ツアー企画など、対象学生の個性を活かした展開を実施しました。

《実績》

京都学園大学：6名

龍谷大学：2名

宮津高等学校：9名



ボランティア

丹後の高校生育成プロジェクト

丹後の高校生を中心に、こども向けプログラムのリーダーとして受け入れられました。今後は、単発の参加ではなく継続的に関わることで、ボランティア自身がスキルアップし、プログラム運営が担える人材になることを目指して育成を図っていきます。

《実績》

峰山高等学校：29名

加悦谷高等学校：6名

宮津高等学校：2名



スタッフ研修

Leave No Trace 受講

スタッフ2名が Leave No Trace トレーナーコースという1泊2日の研修に参加しました。Leave No Trace とは、「自然を利用するすべての人が、環境に対する責任をもち、楽しく利用するための環境倫理プログラム」と定義されています。今回の研修を受けて、環境教育の考えを深め、プログラムの幅を広げることができました。



2016 年事業報告 人材育成

インターンシップ受入れ数：17名

ボランティア受入れ数：37名

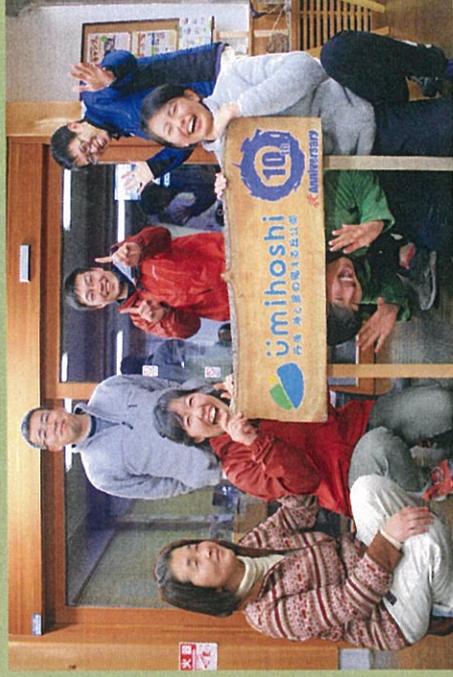
コンセプトミーティング

「なんとかなる」を、丹後から

27年度の研修でご縁をいただいた神戸YMCAの阪田晃一氏を招き、1年をかけてプログラムの魅力を高めるための検討の場をもちました。

そもそも自分たちは何をなしたいチームなのか、何を大切にするのかという根本から時間をかけて掘り下げました。

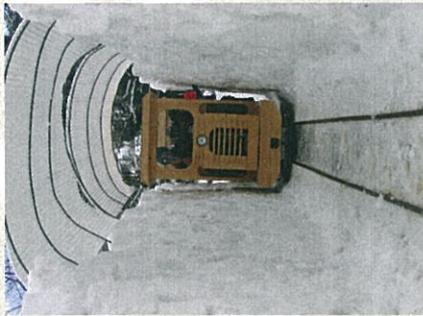
やって、考えて、わかって、自ら行動できる人、すなわち、いかなる環境であっても生き抜いていく力をもった人が育つような場とプログラムを提供していきます。



ありがとう。波見分校 事務所移転

地球デザインスクールの原点

平成28年8月、設立当初から地球デザインスクールの拠点であった波見分校を宮津市に返還しました。主な理由としては、昭和37年の改築工事から50年以上以上が経ち、老朽化が進んだためです。

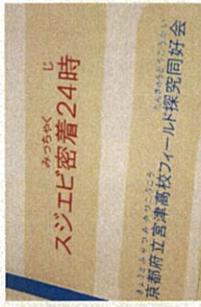


その他

寄贈品のご紹介

貴重な資料をいただきました

公園をフィールドにハッチョウトンボの生態を調査されている嶋田勇氏より、調査結果をまとめたパネルを寄贈いただきました。パネルには、ハッチョウトンボの羽化から産卵までの2年間の流れを写真でまとめられています。
宮津高等学校フィールド探求同好会からは、生徒らがまとめたスジエビの調査研究「スジエビ密着24時」をいただきました。



開園10周年「うみほし感謝祭」の様子

10年で紡がれたつながり うみほしにつなげた皆様に感謝！

平成18年8月1日に開園した府立丹後海と星の見える丘公園が10周年を迎えました。10周年当日は、これまで公園に関わった方をお招きして、京都精華大学の小松正文教授のピアノ演奏や曾和理事による竹の手ぼうきづくり、うみほしクラブの同窓会などを行い、多くの方と一緒に10周年を祝うことができました。

